

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公 開 特 許 公 報(A)

(11) 特許出願公開番号
特開2016-204002
(P2016-204002A)

(43) 公開日 平成28年12月8日 (2016. 12. 8)

(51) Int.Cl.
B 6 5 D 5/52 (2006.01)

F I
B 6 5 D 5/52 P

テーマコード (参考)
3 E 0 6 0

審査請求 有 請求項の数 9 O L (全 24 頁)

(21) 出願番号 (22) 出願日 (11) 特許番号 (45) 特許公報発行日	特願2015-85436 (P2015-85436) 平成27年4月17日 (2015. 4. 17) 特許第5811488号 (P5811488) 平成27年11月11日 (2015. 11. 11)	(71) 出願人 515050563 株式会社GROUNDSTAR 宮崎県宮崎市生目台西三丁目4番地2 (74) 代理人 100197734 弁理士 園田 康弘 (72) 発明者 齊藤 総一郎 宮崎県宮崎市生目台西三丁目4番地2 株 式会社GROUNDSTAR内 Fターム(参考) 3E060 AA03 AB18 AC03 BB01 BB02 BC02 CB03 CB16 CB24 CB30 CC12 CC18 CC52 DA04 DA30 EA20
--	--	---

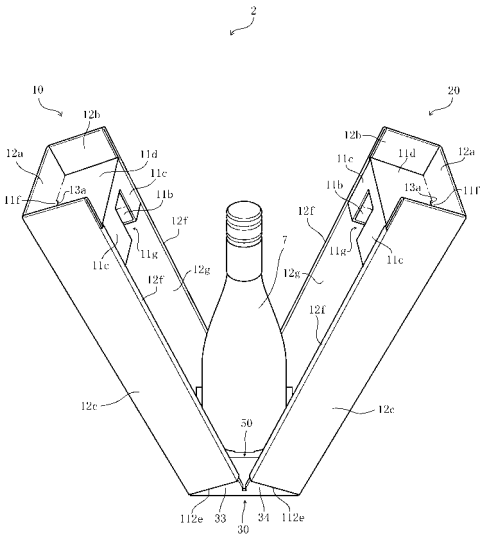
(54) 【発明の名称】 包装用容器

(57) 【要約】

【課題】包装用容器、特に、内部包装用容器と外部包装容器とを有する瓶類の包装用容器において、縦長形状の包装用容器を立てた状態で、瓶類の収納又は取り出しの少なくとも一方を容易に行うことができる包装用容器を提供することを目的とする。

【解決手段】内部包装用容器と外部包装用容器を備えた包装用容器であって、前記内部包装用容器は、収納物の収納又は取り出しの少なくとも一方において開閉可能な開閉収納体を有し、該開閉収納体が開かれた際に、該開閉収納体の開く範囲が制限されることを特徴とする。

【選択図】 図16



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

内部包装用容器と外部包装用容器を備えた包装用容器であって、
前記内部包装用容器は、収納物の収納又は取り出しの少なくとも一方において開閉可能な開閉収納体を有し、

該開閉収納体が開かれた際に、該開閉収納体の開く範囲が制限されることを特徴とする包装用容器。

【請求項 2】

前記外部包装用容器は、キャンドルスリーブとして形成されていることを特徴とする請求項 1 に記載の包装用容器。

10

【請求項 3】

前記内部包装用容器の底部に、前記開閉収納体の開く範囲を制限する制限手段を備えることを特徴とする請求項 1 又は請求項 2 に記載の包装用容器。

【請求項 4】

前記制限手段は、傾斜された辺を有するフラップを備え、
前記フラップを前記開閉収納体に装着して、前記傾斜された辺と前記開閉収納体とが係合して該開閉収納体の開く範囲を制限することを特徴とする請求項 3 に記載の包装用容器。

【請求項 5】

前記開閉収納体の開く範囲は、該開閉収納体の開角度であることを特徴とする請求項 1 乃至請求項 4 のいずれか 1 項に記載の包装用容器。

20

【請求項 6】

前記開閉収納体の開く範囲は、該開閉収納体の回動する量であることを特徴とする請求項 1 乃至請求項 4 のいずれか 1 項に記載の包装用容器。

【請求項 7】

前記開閉収納体の開く範囲は、該開閉収納体の開く位置であることを特徴とする請求項 1 乃至請求項 4 のいずれか 1 項に記載の包装用容器。

【請求項 8】

前記開閉収納体の開く範囲は、該開閉収納体の開く距離であることを特徴とする請求項 1 乃至請求項 4 のいずれか 1 項に記載の包装用容器。

30

【請求項 9】

前記開閉収納体は、対向して配置される一対の第 1 及び第 2 の開閉収納体で構成されることを特徴とする請求項 1 乃至請求項 8 のいずれかに記載の包装用容器。

【請求項 10】

前記開閉収納体の上部に、前記収納物の頂部保護手段を備えていることを特徴とする請求項 1 乃至請求項 9 のいずれか 1 項に記載の包装用容器。

【請求項 11】

前記内部包装用容器は、頂部に上蓋部と、底部に台座部とを備え、
前記上蓋部は、前記開閉収納体を係止して、該開閉収納体の閉じた状態を維持し、
前記台座部は、前記内部包装用容器の底部に嵌装されて、前記収納物の底部を保護することを特徴とする請求項 1 乃至請求項 10 のいずれか 1 項に記載の包装用容器。

40

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、包装用容器に関し、特に、瓶類の包装用容器に関するものである。

【背景技術】**【0002】**

従来、清酒、ワイン、ウィスキー、焼酎、ジュース等の飲料水が入った瓶類の包装用容器としては、包装用容器を使用しないときは、該包装用容器を扁平形状に展開し、複数枚

50

数が積層されて保管され、使用時には、個々の包装用容器を所定の方法により立体箱形状に組み立てるものがある。この包装用容器は、それぞれの瓶の大きさや形状に合わせて、専用の形状をなしているものもあり、また、贈答用に使用される包装用容器は、箱の外周面に化粧を施されたものもある。包装用容器の素材は、コートボール、段ボール等の紙が一般的である（特許文献１，２参照。）。

【０００３】

上記の包装用容器は、構造が単純なものは、例えば、落下等の衝撃に弱く、また、耐衝撃性を考慮されたものであっても、あくまで、使用目的は、瓶類の包装用であるから、例えば、清酒又はワインが入った瓶の包装用容器は、清酒又はワインが飲まれるとき、または、清酒又はワインを飲み終わった後は、廃棄されてしまうか、小物入れ用として利用される。なお、瓶とともに包装用容器も記念あるいは思い出のもの等として保管されることもある。

10

【０００４】

ところで、一般的に、レストラン等で飲食するときに、飲食の雰囲気や美味しさをより高めるために、室内の照明を暗くして、キャンドルを灯し、幻想的空間、ロマンティックな空間等、様々な演出がなされていることが多い。このとき、キャンドルスリーブやキャンドルホルダーにより、キャンドルの炎を利用した演出もなされている（特許文献３参照。）。このような演出は、レストラン以外の様々な飲食店、結婚披露宴、パーティー、あるいは、一般家庭でも、行われている。

【０００５】

通常、一般家庭においては、キャンドルスリーブやキャンドルホルダーは、清酒又はワイン等のアルコール飲料とは別々に購入する必要がある。しかしながら、アルコール飲料の販売箇所とキャンドルスリーブの販売箇所は、それぞれの販売店舗が相当離隔していたり、大型店舗のように同一の店舗であってもそれぞれの売り場が相当離隔していたりして、移動距離が長く、購入するのに不便である。

20

そこで、本発明者は、瓶に入った飲料、特にアルコール飲料をキャンドルスリーブの演出効果を楽しみながら飲むときに、キャンドルスリーブと瓶とを別々に購入する不便さを解消するために、瓶の包装用容器の一部がキャンドルスリーブとして形成され、該包装用容器の一部をキャンドルスリーブとして使用した際に、顕著な演出効果を発揮することができる包装用容器を考案した（特許文献４参照。）。

30

【０００６】

ここで、上記の特許文献４に記載の包装用容器は、縦長の該包装容器を横にした状態（瓶を横にした状態）で瓶の収納・取り出しを行うものであり、収納・取り出し口が広く形成されており、また、瓶胴部係止片を設けて瓶の転がりを防止しているので、瓶の収納・取り出しを安全かつ容易に行うことができる。

【０００７】

一方、上記の特許文献１の図１～図８に記載の「包装用紙箱」は、縦長形状の該「包装用紙箱」を立てた状態で「蓋部１９」を用いて、また、特許文献２に記載の「瓶用容器」においては、縦長形状の該「瓶用容器」を立てた状態で「瓶用容器１の口」を用いて、それぞれ、瓶の収納・取り出しを行うものと推量されるが、縦長形状の容器の上部に形成された「蓋部１９」、「瓶用容器１の口」の開口部が狭いので、瓶の収納・取り出しが不便である。

40

【先行技術文献】

【特許文献】

【０００８】

【特許文献１】特開２００７－２８４０６７号公報

【特許文献２】登録実用新案第３０５８１５４号公報

【特許文献３】登録実用新案第３０６６６９７号公報

【特許文献４】登録実用新案第３１９６４０９号公報

【発明の概要】

50

【発明が解決しようとする課題】**【0009】**

このため、本発明は、包装用容器、特に、内部包装用容器と外部包装容器とを有する瓶類の包装用容器において、縦長形状の包装用容器を立てた状態で、瓶類の収納又は取り出しの少なくとも一方を容易に行うことができる包装用容器を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】**【0010】**

上記の目的を達成するため、本発明の包装用容器は、内部包装用容器と外部包装用容器を備えた包装用容器であって、前記内部包装用容器は、収納物の収納又は取り出しの少なくとも一方において開閉可能な開閉収納体を有し、該開閉収納体が開かれた際に、該開閉収納体の開く範囲が制限されることを第1の特徴とする。

10

【0011】

また、本発明の包装用容器は、前記外部包装用容器は、キャンドルスリーブとして形成されていることを第2の特徴とする。

【0012】

また、本発明の包装用容器は、前記内部包装用容器の底部に、前記開閉収納体の開く範囲を制限する制限手段を備えることを第3の特徴とする。

【0013】

また、本発明の包装用容器は、前記制限手段が、傾斜された辺を有するフラップを備え、前記フラップを前記開閉収納体に装着して、前記傾斜された辺と前記開閉収納体とが係合して該開閉収納体の開く範囲を制限することを第4の特徴とする。

20

【0014】

また、本発明の包装用容器は、前記開閉収納体の開く範囲は、該開閉収納体の開角度であることを第5の特徴とする。

【0015】

また、本発明の包装用容器は、前記開閉収納体の開く範囲は、該開閉収納体の回転する量であることを第6の特徴とする。

【0016】

また、本発明の包装用容器は、前記開閉収納体の開く範囲は、該開閉収納体の開く位置であることを第7の特徴とする。

30

【0017】

また、本発明の包装用容器は、前記開閉収納体の開く範囲は、該開閉収納体の開く距離であることを第8の特徴とする。

【0018】

また、本発明の包装用容器は、前記開閉収納体が、対向して配置される一対の第1及び第2の開閉収納体で構成されることを第9の特徴とする。

【0019】

また、本発明の包装用容器は、前記開閉収納体の上部に、前記収納物の頂部保護手段を備えていることを第10の特徴とする。

40

【0020】

また、本発明の包装用容器は、頂部に上蓋部と、底部に台座部とを備え、前記上蓋部は、前記開閉収納体を係止して、該開閉収納体の閉じた状態を維持し、前記台座部は、前記内部包装用容器の底部に嵌装されて、前記収納物の底部を保護することを第11の特徴とする。

【発明の効果】**【0021】**

本発明によれば、開閉収納体を備えた包装用容器が、縦長形状の該包装用容器を立てた状態で瓶類の収納又は取り出しの少なくとも一方を行うために前記開閉収納体を開いた際に、該開閉収納体が所定の範囲以上に開くことが制限されるように形成されているので、

50

前記包装用容器を立てた状態で、瓶類の収納又は取り出しの少なくとも一方を容易に行うことができる。

【 0 0 2 2 】

また、本発明によれば、包装用容器の一部がキャンドルスリーブとして形成され、該包装用容器の一部をキャンドルスリーブとして使用することで、顕著な演出効果を発揮することができる。

【図面の簡単な説明】

【 0 0 2 3 】

【図 1】本発明の一実施形態における内部包装用容器の左開閉収納体の展開図である。

【図 2】本発明の一実施形態における内部包装用容器の右開閉収納体の展開図である。

10

【図 3】本発明の一実施形態における内部包装用容器の底部の展開図である。

【図 4】本発明の一実施形態における内部包装用容器の上蓋部の展開図である。

【図 5】本発明の一実施形態における内部包装用容器の台座部の展開図である。

【図 6】本発明の一実施形態における内部包装用容器の台座補助部の展開図である。

【図 7】本発明の一実施形態における外部包装用容器の展開図である。

【図 8】本発明の一実施形態における左開閉収納体を組み立てた状態を示す斜視図である。

【図 9】本発明の一実施形態における底部を組み立てた状態を示す斜視図である。

【図 10】本発明の一実施形態における左開閉収納体に底部を装着して組み立てた状態を示す斜視図である。

20

【図 11】本発明の一実施形態における内部包装用容器本体を組み立てた状態を示す斜視図である。

【図 12】本発明の一実施形態における上蓋部を組み立てた状態を示す斜視図である。

【図 13】本発明の一実施形態における台座部に補助台座を着設して組み立てた状態を示す斜視図である。

【図 14】本発明の一実施形態における包装用容器を組み立てた状態を示す斜視図である。

【図 15】本発明の一実施形態における包装用容器を半開にした状態を示す斜視図である。

【図 16】本発明の一実施形態における包装用容器を全開にした状態を示す斜視図である。

30

【図 17】本発明の一実施形態における包装用容器を全開にした状態を示す正面図である。

【図 18】本発明の一実施形態における包装用容器の開く範囲の説明図である。

【発明を実施するための形態】

【 0 0 2 4 】

以下、好適な実施の形態を用いて本発明をさらに具体的に説明する。但し、下記の実施形態は本発明を具現化した例に過ぎず、本発明はこれに限定されるものではない。

【 0 0 2 5 】

本発明の包装用容器 1 は、内部包装用容器 2 と外部包装用容器 3 を備えている。さらに、内部包装用容器 2 は、左開閉収納体 10 と右開閉収納体 20 と底部 30 を備えた内部包装容器本体 2a と、上蓋部 40 と、台座部 50 を備えている。また、台座部 50 には、収納する瓶類の異なる高さに対応するために、高さ調整用の台座補助部 60 が設けられている。本実施形態においては、内部包装用容器 2 は全ての構成部品が和紙で形成され、外部包装用容器 3 はポリエチレンテレフタレートで形成されているが、必要に応じて適宜素材を変更してもよい。なお、各図に矢印で示した上、下、左、右の方向は、各図毎の説明を行うために便宜上設けたものである。

40

【 0 0 2 6 】

図 1 に、本発明の一実施形態における左開閉収納体 10 の展開図を示す。図 2 に、本発明の一実施形態における右開閉収納体 20 の展開図を示す。図 3 に、本発明の一実施形態

50

における底部 30 の展開図を示す。図 2 の右開閉収納体 20 は、組み立てられて図 1 の左開閉収納体 10 と対向して配置されるものであり、図 1 の左開閉収納体 10 と同一構成、同一機能であるため、図 2 の説明は省略する。図 2 の構成部品の符号も図 1 の符号と同一とした。

【0027】

図 1 に示すように、左開閉収納体 10 は一枚のブランクを折り畳んで組み立て可能なように形成されている。左開閉収納体 10 は、上側から順に、瓶口保護部 11、側壁部 12、底板 13 が連設されて構成されている。側壁部 12 には、左右にロック片 14、14 が連設されている。収納した瓶類を保護するため、包装用容器 1 を組み立てるときに、左開閉収納体 10 の所定の構成部品を所定の折り線で折り曲げることによって、包装用容器 1 は二重壁を形成するように構成されている。なお、折り線を、山折り線、又は、谷折り線で表記するが、山折りとは折り目の線が外側になるように折ることであり、谷折りとは折り目の線が内側に隠れてしまうように折ることであり、図では、一点鎖線で示している。

【0028】

瓶口保護部 11 は、包装用容器 1 に瓶類を収納したときに、瓶類の口部を外部の衝撃から保護するためのものであり、左開閉収納体 10 の上部に形成されている。側壁部 12 は、包装用容器 1 に瓶類を収納したときに、瓶類の胴部を外部の衝撃から保護するためのものであり、瓶口保護部 11 の下方に連設されて形成されている。底板 13 は、底部 30 との連結のため、側壁部 12 の下方に連設されて形成されている。上述したように、収納した瓶類の口部、胴部は、左開閉収納体 10 で保護されるが、瓶類の底部は、後述する台座部 50、台座補助部 60 で保護される。

【0029】

瓶口保護部 11 は、上側から順に、矩形の係合片 11a と、略逆凹字形の瓶口保護下面 11b と、略凹字形の瓶口保護前面 11c と、略矩形の瓶口保護上面 11d とが、それぞれ、山折り線 111a、谷折り線 111b、山折り線 111c を介して連設されている。瓶口保護下面 11b の左右辺の一部には切欠部が形成されている。また、瓶口保護前面 11c の左右には、谷折り線 111d、111d を介して、差込舌片 11e、11e が連設され、瓶口保護上面 11d の下辺部には凸片 11f が形成されている。瓶口保護上面 11d の下辺部の左右に山折り線 111j、111j を形成し、下方に側壁部 12 が連設されている。

【0030】

なお、各折り線には、折曲がりやすいように折り目が付けられているが、例えば、折り線が長く折れ曲がりにくい箇所等は、必要に応じて、折り線の一部又は全部に、例えば、ミシン目状の切込を設けて、折れ曲がり易いように形成されている。

【0031】

ここで、各図形においては、図の上下方向を「長さ」、図の左右方向を「幅」と定義すれば、係合片 11a と瓶口保護下面 11b の上部と瓶口保護上面 11d とは、それぞれ、同じに幅に形成され、瓶口保護下面 11b と瓶口保護上面 11d とは、同じに長さ形成されている。瓶口保護下面 11b の下部と瓶口保護前面 11c の幅は、ブランクの厚さ分、係合片 11a の長さよりも短く形成されている。なお、折り線、辺等については、上下・左右方向に関係なく、「長さ」を用いることにする。

【0032】

また、瓶口保護下面 11b と瓶口保護前面 11c とに跨がる領域には、矩形状の瓶口嵌合部 11g が形成されており、この瓶口嵌合部 11g の上下辺には、谷折り線 111f、111h が形成され、略中央部には、山折り線 111g が形成され、左右辺に切込 111i、111i が切り込まれて形成されており、この瓶口嵌合部 11g は、左開閉収納体 10 を組み立てたときに、谷折り線 111f、111h、山折り線 111g、切込 111i、111i によって、収納された瓶の瓶口が嵌合可能な凹み部を形成して、瓶口を保護することができる。

【0033】

10

20

30

40

50

瓶口保護部 11 は、左開閉収納体 10 を組み立てたときに、凹み部（瓶口嵌合部 11g）を有する箱体に形成され、瓶口保護上面 11d がこの箱体の上面を形成し、瓶口保護下面 11b が下面を形成し、瓶口保護前面 11c が前面を形成し、差込舌片 11e, 11e が側面を形成する。なお、箱体の背面は、側壁部 12 の一部である頂部前側内壁 12a, 頂部外側内壁 12b, 12b によって形成される。

【0034】

側壁部 12 は、左開閉収納体 10 が組み立てられたときに、左側、背面側、右側の 3 方向の側壁を形成する。側壁は、全て内壁と外壁とを備えた二重壁である。

瓶口保護部 11 の瓶口保護上面 11d の下側には、左右の山折り線 111j, 111j を介して略矩形の頂部前側内壁 12a が連設され、頂部前側内壁 12a の左右には谷折線 112a, 112a を介して矩形の頂部外側内壁 12b, 12b が連設されている。左右の山折り線 111j, 111j の間には、瓶口保護上面 11d 側に向けて凸状の切込を設け、凸片 11f が形成されている。ここで、「外側」とは、「左側」と「右側」を総称して表している。

【0035】

左右の頂部外側内壁 12b, 12b、頂部前側内壁 12a の下側には、それぞれ、谷折り線 112b, 112b, 112c を介して、略矩形の外側外壁 12c, 12c, 前側外壁 12d が連設されている。外側外壁 12c, 12c の下端縁 112e, 112e は、外側から内側に向けて、それぞれ下方に傾斜するように形成されている。外側外壁 12c, 12c は、谷折り線 112d, 112d を介して前側外壁 12d に連設されている。外側外壁 12c, 12c, 前側外壁 12d の長さは、収納する瓶等の高さを考慮して設定されている。外側外壁 12c, 12c, 前側外壁 12d の幅は、収納する瓶等の胴径を考慮して設定されている。但し、左開閉収納体 10 と右開閉収納体 20 とで、一对の開閉収納体を構成するので、外側外壁 12c, 12c それぞれの幅は、前側外壁 12d の幅の半分程度でよい。外側外壁 12c, 12c それぞれの幅は同じである。

【0036】

外側外壁 12c, 12c の左右には、谷折り線 112g, 112g を介して、矩形の差込空間形成壁 12f, 12f が形成されている。差込空間形成壁 12f, 12f の上端の位置は、頂部外側内壁 12b, 12b の上端の位置から、頂部外側内壁 12b, 12b の長さの 2 倍分下側に形成されている。つまり、左開閉収納体 10 を組み立てるときに、谷折り線 112b, 112b, 112c に沿って、頂部外側内壁 12b, 12b, 頂部前側内壁 12a を折り曲げると、頂部外側内壁 12b, 12b の上端位置と、差込空間形成壁 12f, 12f の上端の位置が一致するように形成されている。差込空間形成壁 12f, 12f の幅は、ブランクの厚さと略同じであり、後述する底部 30 の左右開角度制限片 33, 34 が差込可能な幅に形成されている。

【0037】

差込空間形成壁 12f, 12f の左右には、谷折り線 112h, 112h を介して、略矩形の外側内壁 12g, 12g が連設されている。外側内壁 12g, 12g の上部には、切欠部 12h, 12h が形成されている。この切欠部 12h, 12h は、左開閉収納体 10 を組み立てたときに、瓶口保護部 11 の係合片 11a の左右端及び瓶口保護下面 11b の左右端が嵌合されるように形成されている。また、外側外壁 12c, 12c が二重壁の外壁を構成し、外側内壁 12g, 12g が二重壁の内壁を構成するように形成されている。

【0038】

外側内壁 12g, 12g の左右には、山折り線 112i, 112i, 112i, 112i を介して、略矩形の前側内壁 12i, 12i が連設されている。前側内壁 12i, 12i の幅は、それぞれ、前側外壁 12d の幅の半分の幅に設定されている。つまり、左開閉収納体 10 を組み立てたときに、前側外壁 12d が、二重壁の外壁を構成し、前側内壁 12i, 12i が、二重壁の内壁を構成するように形成されている。

【0039】

10

20

30

40

50

左側の山折り線 1 1 2 i , 1 1 2 i の間には、外側内壁 1 2 g 側に向けて凸状の切込を設け、凸片 1 2 j が形成されている。この凸片 1 2 j の幅は、差込空間形成壁 1 2 f の幅と略同一に形成され、左開閉収納体 1 0 を組み立てたときに、凸片 1 2 j の端部が、外側外壁 1 2 c (外側外壁 1 2 c の内側面) に当接することで、左開閉収納体 1 0 が所定の折り線で折り曲げられて組み立てられたときに、後述する底部 3 0 の左開角度制限片 3 3 が差込まれるための差込空間部 1 2 k が潰れないように構成されている。同様に、右側の山折り線 1 1 2 i , 1 1 2 i の間には、外側内壁 1 2 g 側に向けて凸状の切込を設け、凸片 1 2 j が形成されている。この凸片 1 2 j の幅は、差込空間形成壁 1 2 f の幅と略同一に形成され、左開閉収納体 1 0 を組み立てたときに、凸片 1 2 j の端部が、外側外壁 1 2 c (外側外壁 1 2 c の内側面) に当接することで、左開閉収納体 1 0 が所定の折り線で折り曲げられて組み立てられたときに、後述する底部 3 0 の右開角度制限片 3 4 が差込まれるための差込空間部 1 2 k が潰れないように構成されている。

10

【 0 0 4 0 】

外側内壁 1 2 g , 1 2 g の上側には、山折り線 1 1 2 j , 1 1 2 j を介して、ロック片 1 4 , 1 4 が連設されている。ロック片 1 4 , 1 4 には、係止切込部 1 4 a , 1 4 a が形成されており、左開閉収納体 1 0 を組み立てたときに、この係止切込部 1 4 a , 1 4 a を互いに噛み合わせて、ロック片 1 4 , 1 4 がロックされることで、左開閉収納体 1 0 の上部の強度を向上することができる。

【 0 0 4 1 】

前側外壁 1 2 d の下側には、谷折り線 1 1 2 f , 1 1 2 f を介して、略矩形の底板 1 3 が形成されている。谷折り線 1 1 2 f , 1 1 2 f の間には、底板 1 3 に向けて凸状の切込を設け、凸片 1 2 e が形成されている。

20

【 0 0 4 2 】

図 2 は、本発明の一実施形態における右開閉収納体 2 0 の展開図であるが、前述したように、図 1 の左開閉収納体 1 0 と図 2 の右開閉収納体 2 0 とは、組み立てられたときに対向した配置関係にあり、構成部品、機能は同一であるため、図 2 の説明は省略する。右開閉収納体 2 0 の構成部品の符号も左開閉収納体 1 0 の構成部品の符号と同一とした。図 1 の説明において、左開閉収納体 1 0 を右開閉収納体 2 0 と読み替えればよい。

【 0 0 4 3 】

図 3 は、本発明の一実施形態における底部 3 0 の展開図である。底部 3 0 の中央部には、略正方形の底板 3 1 が形成されている。底板 3 1 の一辺の長さは、前述した底板 1 3 の一辺の長さの略 2 倍である。底板 3 1 の左右中央部には山谷折り線 1 3 1 a , 1 3 1 a を介して、底板差込係止片 3 2 , 3 2 が連設されている。左側の底板差込係止片 3 2 は、上下端部に突出した爪部 3 2 a , 3 2 a を備えた舌片形状をなしている。左開閉収納体 1 0 の組み立て時には、谷折り線 1 1 2 f , 1 1 2 f に沿って谷折りして、底板 1 3 と凸片 1 2 e との間に形成される差込孔 1 3 a (図 8 参照。) に、底板差込係止片 3 2 を差し込むが、凸片 1 2 e の幅と谷折り線 1 3 1 a の長さが略同じに形成されている、つまり、底板差込係止片 3 2 は、爪部 3 2 a , 3 2 a の分だけ、差込孔 1 3 a よりも拡張されているので、底板差込係止片 3 2 を差込孔 1 3 a に差し込むときは、爪部 3 2 a , 3 2 a を強制的に差し込むことで、差し込み後は、爪部 3 2 a , 3 2 a が差込孔 1 3 a に係止される。右側の底板差込係止片 3 2 も、同様に、右開閉収納体 2 0 の組み立て時に、底板 1 3 と凸片 1 2 e との間に形成される差込孔 1 3 a に底板差込係止片 3 2 , 3 2 の爪部 3 2 a , 3 2 a を係止させることができ、このようにして、底板 3 0 により左右開閉収納体 1 0 , 2 0 の底部を閉塞することができる。

30

40

【 0 0 4 4 】

底板 3 1 には、まず、下辺の谷折り線 1 3 1 b を介して、底板 3 1 の下側左右に左開角度制限片 3 3 , 右開角度制限片 3 4 が連設されている。左開角度制限片 3 3 は、左辺 1 3 3 a が垂直で右辺 1 3 3 b が傾斜し、下底が上底よりも短い略台形状のフラップであり、右開角度制限片 3 4 は、左辺 1 3 4 b が傾斜し右辺 1 3 4 a が垂直で、下底が上底よりも短い略台形状のフラップである。つまり、右開角度制限片 3 4 は、底部 3 0 の上下方向中

50

心線（不図示）を基準に、左開角度制限片 3 3 をミラー反転した形状をなす。左開角度制限片 3 3 と右開角度制限片 3 4 とは、それぞれの上部が連設されている。

なお、符号 3 3 , 3 4 は、左開角度制限片 , 右開角度制限片という名称にしているが、左回動量制限片 , 右回動量制限片、又は、左位置制限片 , 右位置制限片、あるいは、左距離制限片 , 右距離制限片という名称にしてもよい。

【 0 0 4 5 】

底板 3 1 上側の左開角度制限片 3 3 , 右開角度制限片 3 4 は、それぞれ、下側の左開角度制限片 3 3 , 右開角度制限片 3 4 を、底部 3 0 の左右方向中心線（不図示）を基準にミラー反転したものであり、同一構成であるので、説明を省略する。

【 0 0 4 6 】

図 4 に、本発明の一実施形態における内部包装用容器 2 の上蓋部 4 0 の展開図を示す。上蓋部 4 0 は、中心部に円形の開口部 4 1 a が開口された略正方形の上面 4 1 を有し、上面 4 1 の左右辺、上下辺に設けられた山折り線 1 4 1 a , 1 4 1 a , 1 4 1 b , 1 4 1 b を介して、左側面 4 2 , 右側面 4 3 , 前側面 4 4 , 後側面 4 5 が連設されている。開口部 4 1 a の内径は、人の指が入る程度の大きさがあればよい。左側面 4 2 の上下には、山折り線 1 4 2 a , 1 4 2 a を介して、左側面フラップ 4 2 a , 4 2 a が連設され、右側面 4 3 の上下には、山折り線 1 4 3 a , 1 4 3 a を介して右側面フラップ 4 3 a , 4 3 a が連設され、前側面 4 4 の下側には、山折り線 1 4 4 a を介して前側面差込片 4 4 a が連設され、後側面 4 5 の上側には、山折り線 1 4 5 a を介して、後側面差込片 4 5 a が連設されている。

【 0 0 4 7 】

さらに、左側面 4 2 の左側には、山折り線 1 4 2 b , 1 4 2 b を介して、下面 4 6 が連設され、山折り線 1 4 2 b と 1 4 2 b の間には、下面 4 6 側に向けて舌片状の係止片 4 2 b が形成されている。下面 4 6 の左側には、山折り線 1 4 6 a , 1 4 6 a を介して、下面差込片 4 6 b が連設され、山折り線 1 4 6 a と 1 4 6 a との間には、下面 4 6 側に向けて舌片状の係止片 4 6 a が形成されている。係止片 4 2 b と係止片 4 6 a は、同一形状の舌片であってよい。

【 0 0 4 8 】

図 5 は、本発明の一実施形態における内部包装用容器 2 の台座部 5 0 の展開図である。台座部 5 0 は、上蓋部 4 0 とほぼ同様の構成をなしている。台座部 5 0 は、略円形の開口部 5 1 a が開口された略正方形の上面 5 1 を有し、上面 5 1 の左右辺、上下辺に設けられた山折り線 1 5 1 a , 1 5 1 a , 1 5 1 b , 1 5 1 b を介して、左側面 5 2 , 右側面 5 3 , 前側面 5 4 , 後側面 5 5 が連設されている。開口部 5 1 a の上下端のヒンジ部 5 7 , 5 7 には、弦が開口部 5 1 a の内径よりも短い部分円形状のフラップ 5 1 b , 5 1 b が形成されている。開口部 5 1 a の内径は、収納する瓶等の胴径を考慮して形成されている。本実施形態の台座部 5 0 の底には、後述する台座補助部 6 0 が着設されている。なお、台座 5 0 には、必要に応じて台座補助部 6 0 を設けなくてもよい。その際には、フラップ 5 1 b , 5 1 b は、半円形状にし、開口部 5 1 a の内径は、胴径に合わせて大きくする。このようにして異なるサイズの開口部 5 1 a を有する複数の台座 5 0 、異なる高さの側面を有する複数の台座補助部 6 0 を予め用意しておけば、1つの包装用容器 1 で、高さや胴回りの異なる複数種類の瓶類に対応することができる。

【 0 0 4 9 】

左側面 5 2 の上下には、山折り線 1 5 2 a , 1 5 2 a を介して、左側面フラップ 5 2 a , 5 2 a が連設され、右側面 5 3 の上下には、山折り線 1 5 3 a , 1 5 3 a を介して右側面フラップ 5 3 a , 5 3 a が連設され、前側面 5 4 の下側には、山折り線 1 5 4 a を介して前側面差込片 5 4 a が連設され、後側面 5 5 の上側には、山折り線 1 5 5 a を介して、後側面差込片 5 5 a が連設されている。さらに、左側面 5 2 の左側には、山折り線 1 5 2 b を介して、下面 5 6 が連設されている。下面 5 6 の左側には、山折り線 1 5 6 a を介して、下面差込片 5 6 a が連設されている。組み立てたときに、上蓋部 4 0 は、開口部を有する箱体に形成される。

【0050】

図6は、本発明の一実施形態における内部包装用容器2の台座補助部60の展開図である。台座補助部60は、略正方形の上面61を有し、上面61の左右辺、上下辺に設けられた山折り線161a, 161a, 161b, 161bを介して、左側面62, 右側面63, 前側面64, 後側面65が連設されている。前述したように、台座補助部60は、台座部50内に着設され、収納される瓶類の高さ調整を行うことができる。

【0051】

図7は、本発明の一実施形態における外部包装用容器3の展開図である。外部包装用容器3は、1枚の略矩形状に展開されており、左側端部には糊代部3bが形成され、糊代部3bの右方向に4つの谷折り線3cで4つの等幅の側壁3aが連設されている。外部包装用容器3は、組み立てられるとき、糊代部3bが右側端部の側壁3aと貼接され、中空の正四角柱に形成される。組み立てられた後は、内部包装用容器2に被装されて用いられる。

10

【0052】

また、外部包装用容器3は、キャンドルスリーブとしても用いられるため、側壁には、半透明の所定の模様が施されている（不図示）。外部包装用容器3をキャンドルスリーブとして用いるときは、外部包装容器3内にキャンドルをセットする。このとき、上蓋部40、台座部50、台座補助部60等のいずれかを、キャンドルスタンドとして用いてもよいし、専用のキャンドルスタンドを用いてもよい。側壁の模様を、雰囲気に応じて適宜変えることで、様々な演出を効果的に行うことができる。本発明によれば、キャンドルスリーブ内に置かれたキャンドルの炎から輻射された光が、キャンドルスリーブ側面に形成された半透明の模様を周囲に投影することで、ユーザの希望に応じた雰囲気を醸し出すことができるので、例えば、前記半透明の模様を、日本の伝統文化を伝えることができるような模様にして、その雰囲気を醸し出すことができる。

20

【0053】

次に、図8～図14を用いて、本発明の一実施形態の包装用容器1の組み立てについて説明する。図8は、本発明の一実施形態における左開閉収納体10を組み立てた状態を示す斜視図である。図9は、本発明の一実施形態における底部30を組み立てた状態を示す斜視図である。図10は、本発明の一実施形態における左開閉収納体10に底部30を装着して組み立てた状態を示す斜視図である。図11は、本発明の一実施形態における左開閉収納体10と右開閉収納体20に底部30を装着して組み立てた状態を示す斜視図、つまり、内部包装用容器本体2aを組み立てた状態を示す斜視図である。図12は、本発明の一実施形態における上蓋部40を組み立てた状態を説明する斜視図である。図13は、本発明の一実施形態における台座部50に台座補助部60を着設して組み立てた状態を説明する斜視図である。図14は、本発明の一実施形態における包装用容器1を組み立てた状態を示す斜視図である。

30

【0054】

図8に示すように、所定の折り線で折り曲げられて組み立てられた左開閉収納体10は、瓶類の収納及び取り出し部が開口された二重壁の箱体をなす。瓶口保護上面11dと、頂部前側内壁12aと、頂部外側内壁12b, 12bとで、上蓋部40の半分を嵌装するための嵌装凹部15aを形成する。組み立てられた上蓋部40の係止片42bは、差込孔11jに差し込まれて、上蓋部40の半分が、左開閉収納体10に係止される。瓶口嵌合部11gは、収納される瓶の口部が嵌合されて、瓶口が固定され、外部の衝撃から瓶口が保護されるように形成されている。外側外壁12c, 12c, 前側外壁12dは、内部包装容器2の外壁の半分をなす。外側外壁12cと差込空間形成壁12fと外側内壁12gと凸片12jとで、差込空間部12kを形成している。なお、右開閉収納体20は、内部包装用容器本体2aにおいて左開閉収納体10と対をなす構成であり、組み立て方も同じであるので、説明は省略する。

40

【0055】

図9に示すように、底部30は、所定の折り線で折り曲げられて、同一方向（図では、

50

上方向。)に立設され、左右開閉収納体10, 20に装着されて、内部包装用容器本体2aの底部を形成する。底部30は、左右開閉収納体10, 20が開かれた際に、左右開閉収納体10, 20の開く範囲を制限する手段であるが、詳細は、後述する。

【0056】

図10に示すように、所定の折り線で折り曲げられて組み立てられた底部30の左開角度制限片33, 33を、左開閉収納体10の差込空間部12k, 12kに挿入する。このとき、底部30の底板差込係止片32が、差込孔13aに差し込まれることによって、底部30の半分が左開閉収納体10に係止される。

【0057】

図11に示すように、所定の折り線で折り曲げられて組み立てられた底部30の右開角度制限片34, 34を、右開閉収納体20の差込空間部12k, 12kに挿入する。このとき、底部30の底板差込係止片32が、差込孔13aに差し込まれることによって、底部30の残りの半分が右開閉収納体20に係止される。左開閉収納体10と右開閉収納体20とは、それぞれの差込空間形成壁12f, 12fが着接されるように構成される。この状態は、左右開閉収納体10, 20の閉じた状態あり、また、包装用容器本体2a, 包装容器2, 包装用容器1の閉じた状態とも表現する。

【0058】

図12に示すように、上蓋部40は、所定の折り線で折り曲げられて組み立てられて、箱体に形成される。開口部41aに指を掛止することで、上蓋部40を、内部包装用容器本体2aに容易に着脱することができる。瓶類を収納した後、上蓋部40を、左右開閉収納体10, 20の嵌装凹部15a, 15aで形成される嵌装凹部15に嵌装するときに、左右開閉収納体10, 20の瓶口保護上面11dと凸片11fとで形成される差込孔11jに、係止片42b, 46aが、それぞれ、差し込まれて係止されることで、左右開閉収納体10, 20の閉じた状態を維持することができる。

【0059】

図13に示すように、台座部50は、所定の折り線で折り曲げられて組み立てられ、略円形の開口部51aが開口された箱体に形成される。台座部50の開口部51aの内径は、瓶の胴径に応じて形成されている。フラップ51b, 51bは、それぞれ、ヒンジ部57, 57を介して、回動可能である。台座部50は、内部包装用容器本体2aの底部に嵌装され、さらに、収納される瓶類の底部分が台座部50の開口部51aに嵌挿される。本実施形態では、瓶の高さ調整のため、台座部50の下面56上に、所定の折り線で折り曲げられて組み立てられた台座補助部60が着設されているが、瓶の高さに応じて、台座補助部60を取り外してもよい。以上のように構成したので、収納された瓶の底部分は、外部の衝撃から保護される。

【0060】

包装用容器1は、左右開閉収納体10, 20と底部30で構成された内部包装用容器本体2aの底部に、台座部50と、必要に応じて台座補助部60とが設けられ、頂部に上蓋部40が設けられてなる内部包装用容器2を外部包装用容器3が包装して、図14に示すように構成される。本実施形態の包装用容器1は、縦長の包装用容器1を立てた状態で、瓶の収納又は取り出しの少なくともいずれか一方を、容易に行うことができる。なお、本実施形態の包装用容器1は、清酒又はワイン等の瓶類を収納した状態で、さらに風呂敷で包装し、贈答用として用いることもできる。このとき、キャンドルスリーブとして使用する外部包装用容器3の側面の模様と、風呂敷の模様とを同じにするとよい。

【0061】

図15～図17は、包装用容器1に収納された瓶7を取り出すために、左右開閉収納体10, 20を開く様子を示したものである。まず、図15は、包装用容器1の半開状態を示し、外部包装用容器3と上蓋部40が包装用容器1から取り外され、瓶7が左開閉収納体10に収納されたままで、右開閉収納体20を完全に開いた状態を示す。左開閉収納体10は、底部30が装着されて略直立しており、右開閉収納体20は、所定の角度に傾倒されている。

10

20

30

40

50

【0062】

図16は、包装用容器1の全開状態を示し、右開閉収納体20に続き、左開閉収納体10も完全に開いた状態を示す。右開閉収納体20と同様に、左開閉収納体10も、所定の角度に開かれて傾倒されている。通常は、この全開状態で、瓶7を包装用容器1から取り出し、また、瓶7を包装用容器1に収納することができる。ここで、この包装用容器1の全開状態で、左右の開閉収納体10, 20の開いた角度、つまり、開角度は、この角度以上に開くことが制限される。従って、収納された瓶7は、収納用容器1が立った状態（収納された瓶7が立った状態）で、容易に取り出しを行うことができる。同様に、収納用容器1が立った状態で、容易に瓶7の収納を行うことができる。

【0063】

10

図17は、包装用容器1の全開状態を正面から見た図である。ここで、包装用容器1を閉じた状態、つまり、左右開閉収納体10, 20を閉じた状態では、差込空間形成壁12f, 12fは、垂直方向に密接された状態にあり、収納された瓶7の垂直方向の中心線CLと略一致する。左開閉収納体10を開いたときの、左開閉収納体10（差込空間形成壁12f）の、中心線CLに対する角度を開角度 θ とすれば、左開閉収納体10の全開状態の開角度 θ は、底部30の左開角度制限片33の右辺133bの中心線CLに対する傾斜角度 θ_0 と略等しくなるように設定されている。同様に、右開閉収納体20（差込空間形成壁12f）の全開状態の開角度 θ は、底部30の右開角度制限片34の左辺134bの中心線CLに対する傾斜角度 θ_0 と略等しくなるように設定される。そして、左右開閉収納体10, 20（差込空間形成壁12f）は、開角度 θ 以上に開かれることが制限されている。

20

【0064】

図18は、開角度が制限される理由を説明する図である。図18(a)は、包装用容器1（左右開閉収納体10, 20）を閉じた状態を示し、図18(b)は、包装用容器1が開かれる途中状態を示し、図18(c)は、包装用容器1の全開状態を示す。

【0065】

包装用容器1を閉じた状態では、左開角度制限片33は、左開閉収納体10の前側外壁12dと、外側外壁12cと、外側内壁12gとで形成される差込空間部12kに差し込まれている。また、右開角度制限片34は、右開閉収納体20の前側外壁12dと、外側外壁12cと、差込空間形成壁12fと、外側内壁12gとで形成される差込空間部12kに差し込まれている。左開閉収納体10を閉じた状態では、左開角度制限片33の左辺133aと、前側外壁12d（「前側外壁12dの内側面」）とは、密接されている方が好ましいが、多少の隙間があってもよい。

30

【0066】

この状態では、左開角度制限片33の右辺133bは、辺の下側から上側に行くほど、差込空間形成壁12f（「差込空間形成壁12fの内側面」。）から離隔している。同様に、右開閉収納体20を閉じた状態では、右開角度制限片34の右辺134aと、前側外壁12d（「前側外壁12dの内側面」）とは、密接されている方が好ましいが、多少の隙間があってもよい。この状態では、右開角度制限片34の左辺134bは、辺の下側から上側に行くほど、差込空間形成壁12f（さらに詳しく言えば、「差込空間形成壁12fの内側面」。）から離隔している。

40

【0067】

この閉じた状態から、左右開閉収納体10, 20を開いていくと、図18(b)に示すように、まず、左開閉収納体10は、谷折り線112fを支軸として左方向に回転する。そして、左開閉収納体10の前側外壁12dは、密接していた左開角度制限片33の左辺133aから徐々に離隔していくが、差込空間形成壁12fは、離隔していた上側部分が、左開角度制限片33の右辺133bに徐々に接近し、図18(c)に示すように、左開閉収納体10（差込空間形成壁12f）の開角度 θ が、左開角度制限片33の右辺133bの中心線CLに対する傾斜角度 θ_0 と略等しくなったときに、差込空間形成壁12fが右辺133bに当接し、回転が停止される。そして、この回転が停止したときの開角度 θ

50

以上に左開閉収納体 10 が開くことが制限される。

【0068】

同様に右開閉収納体 20 は、図 18 (b) に示すように、谷折り線 112f を支軸として右方向に回転する。そして、右開閉収納体 20 の前側外壁 12d は、密接していた右開角度制限片 34 の右辺 134a から徐々に離隔していくが、差込空間形成壁 12f は、離隔していた上側部分が、右開角度制限片 34 の左辺 134b に徐々に接近し、図 18 (c) に示すように、右開閉収納体 20 (差込空間形成壁 12f) の開角度 θ が、右開角度制限片 34 の左辺 134b の中心線 CL に対する傾斜角度 θ_0 と略等しくなったときに、差込空間形成壁 12f が左辺 134b に当接し、回転が停止される。そして、この回転が停止したときの開角度 θ 以上に右開閉収納体 20 が開くことが制限される。

10

【0069】

上述した左右開閉収納体 10, 20 (差込空間形成壁 12f, 12f) の開角度は、右開閉収納体 10, 20 (差込空間形成壁 12f, 12f) が、中心線 CL に対して回転する量 (あるいは、回転する量) と表現を変えて言うこともできる。

【0070】

以上は、包装用容器 1 が開く範囲を、角度という観点で説明したが、以下のように、位置という観点でも説明できる。

左開閉収納体 10 が、谷折り線 112f を支軸として左廻りに回転したときに、「外側外壁 12c の下端縁 112e の長さ」と、「谷折り線 112f から右辺 133b までの直線距離」が等しくなった位置 P1 で、差込空間形成壁 12f (差込空間形成壁 12f の内側面) の下端部が右辺 133b に当接し、回転が停止する (図 18 (c) 参照。)。そして、この右辺 133b の位置 P1 よりも上側に行くにしたがって、「谷折り線 112f から右辺 133b までの直線距離」は、「外側外壁 12c の下端縁 112e の長さ」よりも長くなるように形成されている、つまり、図示のように、右辺 133b は、直線的に傾斜して形成されているので、差込空間形成壁 12f と右辺 133b との当接する領域が長く (広く) なることで、左開閉収納体 10 は、位置 P1 以上に回転することが制限される。

20

【0071】

同様に、右開閉収納体 20 が、谷折り線 112f を支軸として右廻りに回転したときに、「外側外壁 12c の下端縁 112e の長さ」と、「谷折り線 112f から左辺 134b までの直線距離」が等しくなった位置 P1 で、差込空間形成壁 12f (差込空間形成壁 12f の内側面) の下端部が左辺 134b に当接し、回転が停止する (図 18 (c) 参照。)。そして、この左辺 134b の位置 P1 よりも上側に行くにしたがって、「谷折り線 112f から左辺 134b までの直線距離」は、「外側外壁 12c の下端縁 112e の長さ」よりも長くなるように形成されている、つまり、図示のように、左辺 134b は、直線的に傾斜して形成されているので、差込空間形成壁 12f と左辺 134b との当接する領域が長く (広く) なることで、右開閉収納体 20 は、位置 P1 以上に回転することが制限される。

30

【0072】

左右開閉収納体 10, 20 が閉じられた状態の、差込空間形成壁 12f, 12f (差込空間形成壁 12f, 12f それぞれの内側面) の下端部の位置を P0 とすれば、左右開閉収納体 10, 20 が開かれたときに、「位置 P1 - 位置 P0」の距離以上に左右開閉収納体 10, 20 が開かれることが制限される、という表現もできる。

40

【0073】

さらに、左右開閉収納体 10, 20 (差込空間形成壁 12f, 12f) の開角度 θ 、回転 (回転) する量、位置 P1、距離「P1 - P0」を総称して、左右収納体 10, 20 の開く範囲ともいう。

【0074】

このように、本発明によれば、開閉収納体を備えた包装用容器が、該包装用容器を立てた状態で瓶類の収納又は取り出しの少なくともいずれか一方を行うために、前記開閉収納体を開いた際に、該開閉収納体が所定の範囲以上に開くことを制限されるように形成され

50

ているので、前記包装用容器を立てた状態で、瓶類の収納又は取り出しの少なくともいずれか一方を容易に行うことができる。

【符号の説明】

【0075】

1	包装用容器、	
2	内部包装用容器、	
2 a	内部包装用容器本体、	
3	外部包装用容器、	
3 a	側壁、	
3 b	糊代部、	10
3 c	谷折り線、	
1 0	左開閉収納体、	
1 1	瓶口保護部、	
1 1 a	係合片、	
1 1 b	瓶口保護下面、	
1 1 c	瓶口保護前面、	
1 1 d	瓶口保護上面、	
1 1 e	差込舌片、	
1 1 f , 1 2 e , 1 2 j	凸片、	20
1 1 g	瓶口嵌合部、	
1 1 j 、 1 3 a	差込孔、	
1 2	側壁部、	
1 2 a	頂部前側内壁、	
1 2 b	頂部外側内壁、	
1 2 c	外側外壁、	
1 2 d	前側外壁、	
1 2 f	差込空間形成壁、	
1 2 g	外側内壁、	
1 2 h	切欠部、	
1 2 i	前側内壁、	30
1 2 k	差込空間部、	
1 3 , 3 1	底板、	
1 4	ロック片、	
1 4 a	係止切込部、	
1 5 , 1 5 a	嵌装凹部、	
2 0	右開閉収納体、	
3 0	底部、	
3 2	底板差込係止片、	
3 2 a	爪部、	
3 3	左開角度制限片 3 3 、	40
3 4	右開角度制限片 3 4 、	
4 0	上蓋部、	
4 1 , 5 1 , 6 1	上面、	
4 1 a , 5 1 a	開口部、	
4 2 , 5 2 , 6 2	左側面、	
4 2 a	左側面フラップ、	
4 2 b , 4 6 a	係止片、	
4 3 , 5 3 , 6 3	右側面、	
4 3 a	右側面フラップ、	
4 4 , 5 4 , 6 4	前側面、	50

4 4 a 前側面差込片、
 4 5 , 5 5 , 6 5 後側面、
 4 5 a 後側面差込片、
 4 6 , 5 6 下面、
 4 6 b 下面差込片、

5 0 台座部、

5 1 b フラップ、

5 2 a 左側面フラップ、

5 3 a 右側面フラップ、

5 4 a 前側面差込片、

5 5 a 後側面差込片、

5 6 a 下面差込片、

5 7 ヒンジ部

6 0 台座補助部、

1 1 1 a , 1 1 1 c , 1 1 1 g , 1 1 1 j , 1 1 2 a , 1 1 2 i , 1 1 2 j , 1 4 1 a ,
 1 4 1 b , 1 4 2 a , 1 4 2 b , 1 4 3 a , 1 4 4 a , 1 4 5 a , 1 4 6 a , 1 5 1 a ,
 1 5 1 b , 1 5 2 a , 1 5 2 b , 1 5 3 a , 1 5 4 a , 1 5 5 a , 1 5 6 a , 1 6 1 a ,
 1 6 1 b 山折り線、

1 1 1 b , 1 1 1 d , 1 1 1 f , 1 1 1 h , 1 1 2 b , 1 1 2 c , 1 1 2 d , 1 1 2 f ,
 1 1 2 g , 1 1 2 h , 1 3 1 a , 1 3 1 b 谷折り線、

1 1 2 e 下端縁、

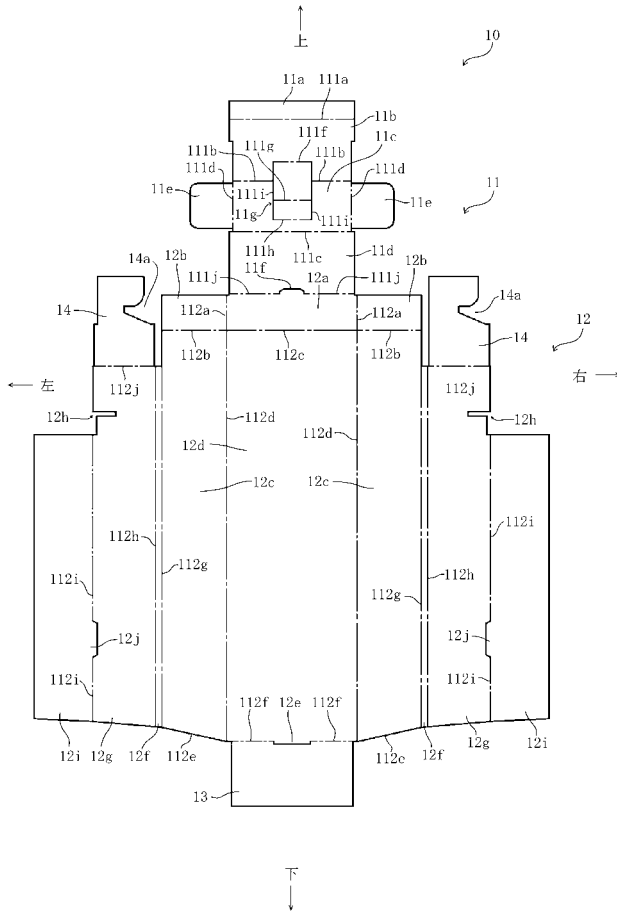
1 3 3 a 左辺、

1 3 3 b 右辺

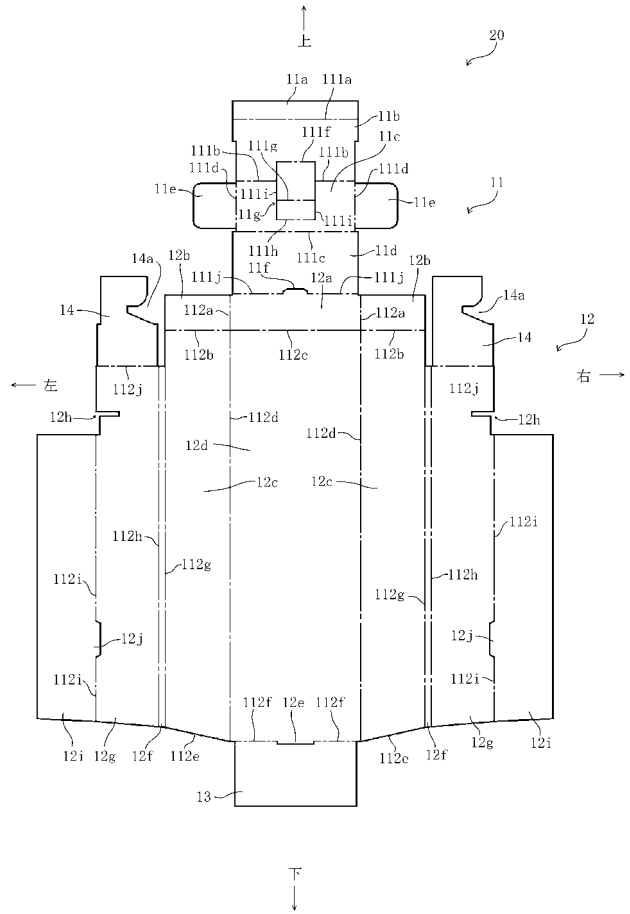
10

20

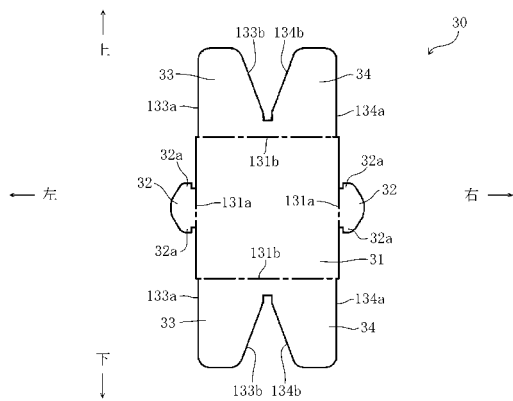
【図 1】



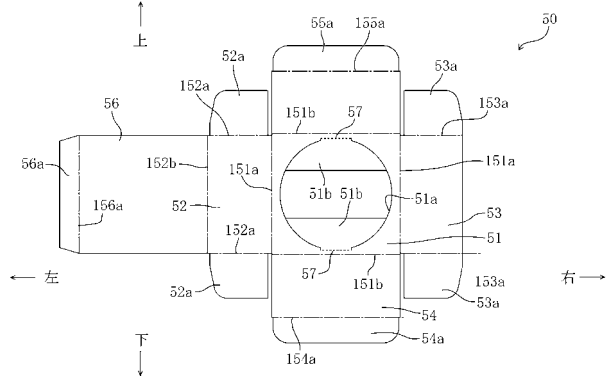
【図 2】



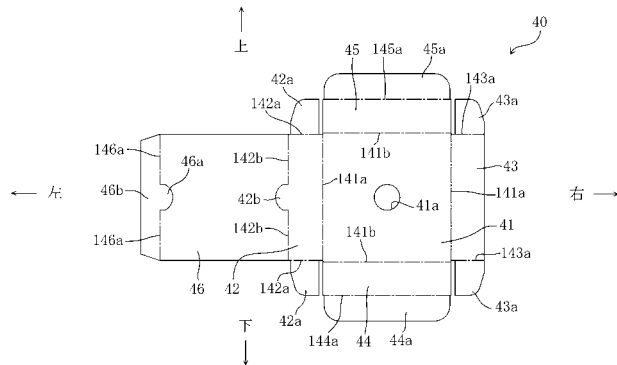
【図 3】



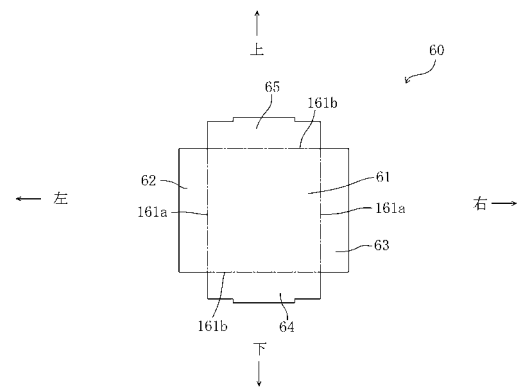
【図 5】



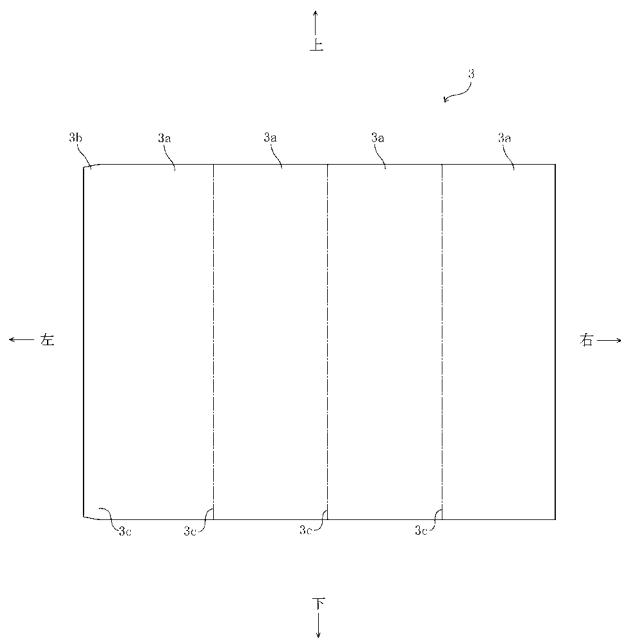
【図 4】



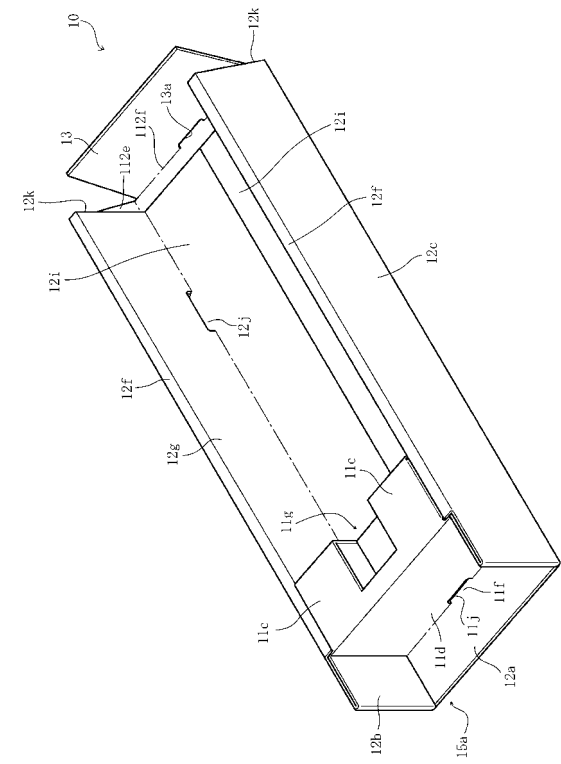
【図 6】



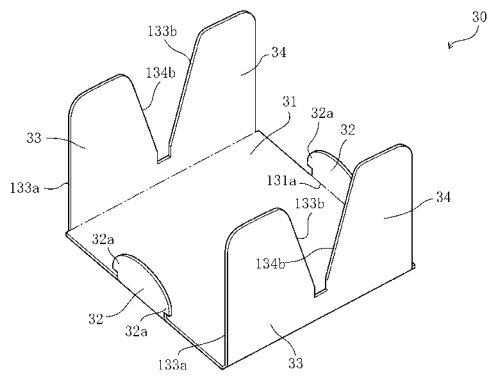
【図 7】



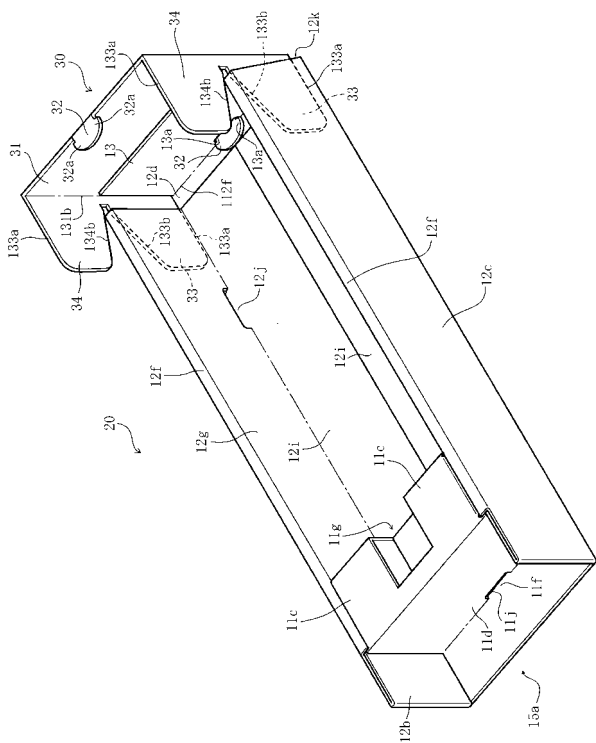
【図 8】



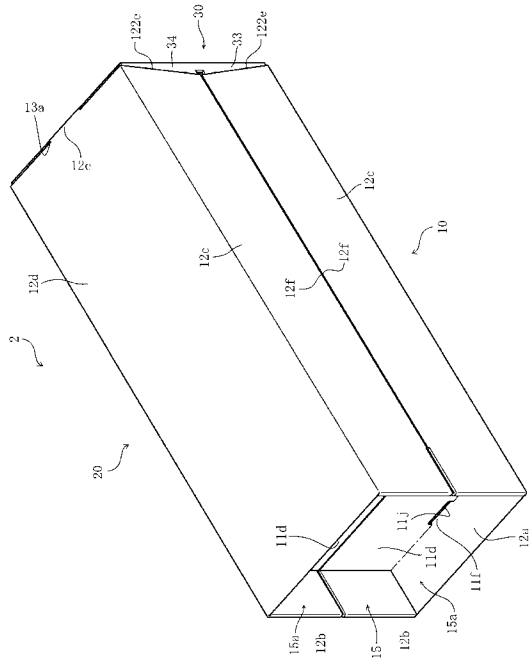
【図 9】



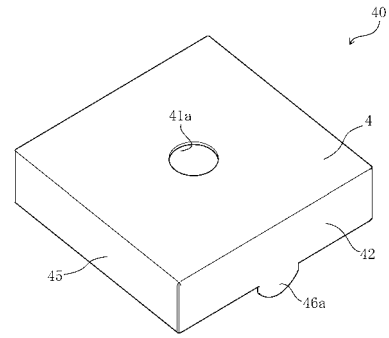
【図 10】



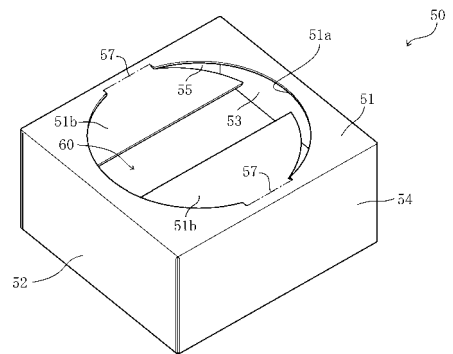
【図 1 1】



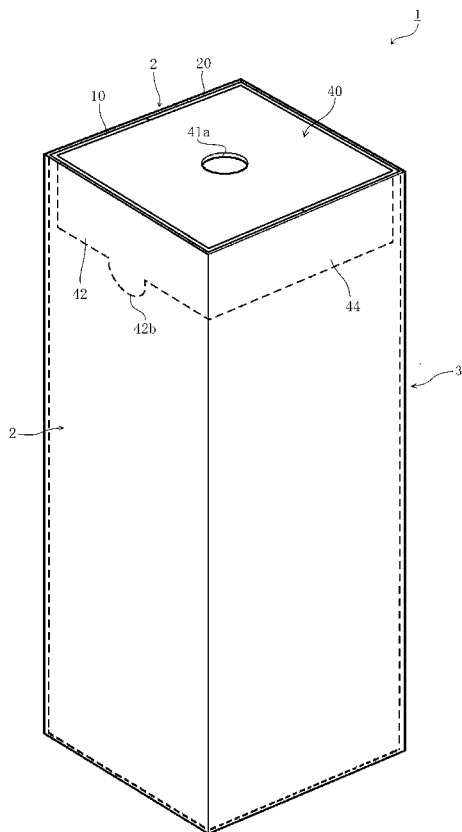
【図 1 2】



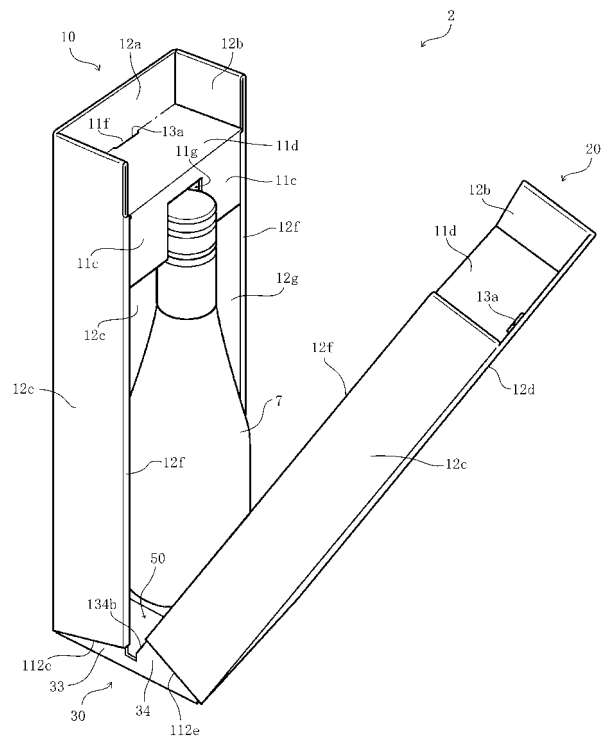
【図 1 3】



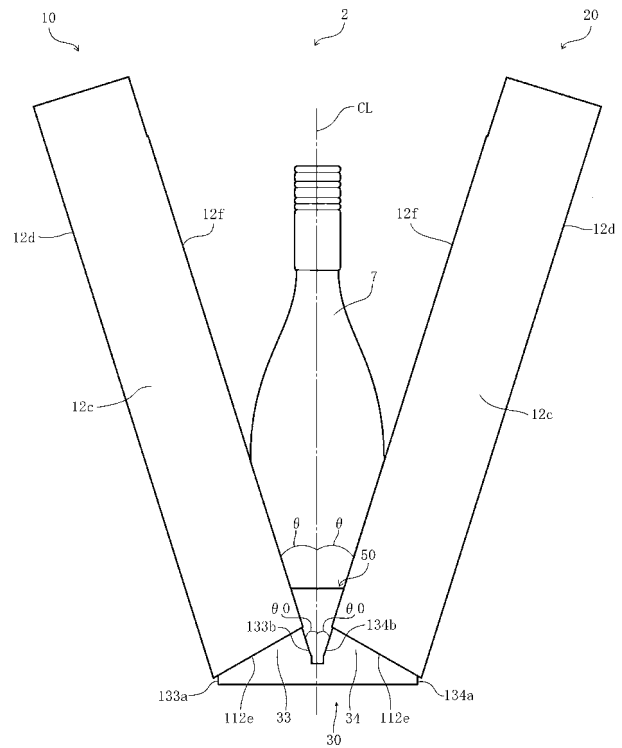
【図 1 4】



【図 1 5】



【 図 1 7 】



【手続補正書】

【提出日】平成27年5月19日(2015.5.19)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

内部包装用容器と外部包装用容器を備えた包装用容器であって、

前記内部包装用容器は、収納物の収納又は取り出しの少なくとも一方において開閉可能な開閉収納体を有し、該開閉収納体が開かれた際に、該開閉収納体の開く範囲を制限する制限手段を備えている

ことを特徴とする包装用容器。

【請求項 2】

前記外部包装用容器は、キャンドルスリーブとして形成されていることを特徴とする請求項 1 に記載の包装用容器。

【請求項 3】

前記制限手段は、前記内部包装用容器の底部に備えられている

ことを特徴とする請求項 1 又は請求項 2 に記載の包装用容器。

【請求項 4】

前記制限手段は、傾斜された辺を有するフラップを備え、

前記フラップを前記開閉収納体に装着して、前記傾斜された辺と前記開閉収納体とが係合して該開閉収納体の開く範囲を制限する

ことを特徴とする請求項 3 に記載の包装用容器。

【請求項 5】

前記開閉収納体の開く範囲は、該開閉収納体の開角度である

ことを特徴とする請求項 1 乃至請求項 4 のいずれか 1 項に記載の包装用容器。

【請求項 6】

前記開閉収納体の開く範囲は、該開閉収納体の回転する量である

ことを特徴とする請求項 1 乃至請求項 4 のいずれか 1 項に記載の包装用容器。

【請求項 7】

前記開閉収納体の開く範囲は、該開閉収納体の開く位置である

ことを特徴とする請求項 1 乃至請求項 4 のいずれか 1 項に記載の包装用容器。

【請求項 8】

前記開閉収納体の開く範囲は、該開閉収納体の開く距離である

ことを特徴とする請求項 1 乃至請求項 4 のいずれか 1 項に記載の包装用容器。

【請求項 9】

前記開閉収納体は、対向して配置される一対の第 1 及び第 2 の開閉収納体で構成されることを特徴とする請求項 1 乃至請求項 8 のいずれかに記載の包装用容器。

【請求項 10】

前記開閉収納体の上部に、前記収納物の頂部保護手段を備えている

ことを特徴とする請求項 1 乃至請求項 9 のいずれか 1 項に記載の包装用容器。

【請求項 11】

前記内部包装用容器は、頂部に上蓋部と、底部に台座部とを備え、

前記上蓋部は、前記開閉収納体を係止して、該開閉収納体の閉じた状態を維持し、

前記台座部は、前記内部包装用容器の底部に嵌装されて、前記収納物の底部を保護することを特徴とする請求項 1 乃至請求項 10 のいずれか 1 項に記載の包装用容器。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 0

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 1 0 】

上記の目的を達成するため、本発明の包装用容器は、内部包装用容器と外部包装用容器を備えた包装用容器であって、前記内部包装用容器は、収納物の収納又は取り出しの少なくとも一方において開閉可能な開閉収納体を有し、該開閉収納体が開かれた際に、該開閉収納体の開く範囲を制限する制限手段を備えていることを第 1 の特徴とする。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 2

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 1 2 】

また、本発明の包装用容器は、前記制限手段が、前記内部包装用容器の底部に備えられていることを第 3 の特徴とする。

【手続補正書】

【提出日】 平成27年7月23日 (2015.7.23)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】 特許請求の範囲

【補正対象項目名】 全文

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

内部包装用容器と外部包装用容器を備えた包装用容器であって、

前記内部包装用容器は、収納物の収納又は取り出しの少なくとも一方において開閉可能な開閉収納体を有し、該開閉収納体が開かれた際に、該開閉収納体の開く範囲を制限する制限手段を備え、

該制限手段は、前記内部包装用容器の底部に備えられ、傾斜された辺を有するフラップを備え、該フラップを前記開閉収納体に装着して、前記傾斜された辺と前記開閉収納体とが係合して該開閉収納体の開く範囲を制限する

ことを特徴とする包装用容器。

【請求項 2】

内部包装用容器と外部包装用容器を備えた包装用容器であって、

前記内部包装用容器は、収納物の収納又は取り出しの少なくとも一方において開閉可能な開閉収納体を有し、該開閉収納体が開かれた際に、該開閉収納体の開く範囲を制限する制限手段を備え、

前記内部包装用容器は、頂部に上蓋部と、底部に台座部とを備え、

前記上蓋部は、前記開閉収納体を係止して、該開閉収納体の閉じた状態を維持し、

前記台座部は、前記内部包装用容器の底部に嵌装されて、前記収納物の底部を保護する

ことを特徴とする包装用容器。

【請求項 3】

前記開閉収納体の開く範囲は、該開閉収納体の開角度である

ことを特徴とする請求項 1 又は請求項 2 に記載の包装用容器。

【請求項 4】

前記開閉収納体の開く範囲は、該開閉収納体の回動する量である

ことを特徴とする請求項 1 又は請求項 2 に記載の包装用容器。

【請求項 5】

前記開閉収納体の開く範囲は、該開閉収納体の開く位置であることを特徴とする請求項 1 又は請求項 2 に記載の包装用容器。

【請求項 6】

前記開閉収納体の開く範囲は、該開閉収納体の開く距離であることを特徴とする請求項 1 又は請求項 2 に記載の包装用容器。

【請求項 7】

前記開閉収納体は、対向して配置される一対の第 1 及び第 2 の開閉収納体で構成されることを特徴とする請求項 1 乃至請求項 6 のいずれか 1 項に記載の包装用容器。

【請求項 8】

前記開閉収納体の上部に、前記収納物の頂部保護手段を備えていることを特徴とする請求項 1 乃至請求項 7 のいずれか 1 項に記載の包装用容器。

【請求項 9】

前記外部包装用容器は、キャンドルスリーブとして形成されていることを特徴とする請求項 1 乃至請求項 8 のいずれか 1 項に記載の包装用容器。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0010】

上記の目的を達成するため、本発明の包装用容器は、内部包装用容器と外部包装用容器を備えた包装用容器であって、前記内部包装用容器は、収納物の収納又は取り出しの少なくとも一方において開閉可能な開閉収納体を有し、該開閉収納体が開かれた際に、該開閉収納体の開く範囲を制限する制限手段を備え、該制限手段は、前記内部包装用容器の底部に備えられ、傾斜された辺を有するフラップを備え、該フラップを前記開閉収納体に装着して、前記傾斜された辺と前記開閉収納体とが係合して該開閉収納体の開く範囲を制限することを第 1 の特徴とする。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0011】

また、本発明の包装用容器は、内部包装用容器と外部包装用容器を備えた包装用容器であって、前記内部包装用容器は、収納物の収納又は取り出しの少なくとも一方において開閉可能な開閉収納体を有し、該開閉収納体が開かれた際に、該開閉収納体の開く範囲を制限する制限手段を備え、前記内部包装用容器は、頂部に上蓋部と、底部に台座部とを備え、前記上蓋部は、前記開閉収納体を係止して、該開閉収納体の閉じた状態を維持し、前記台座部は、前記内部包装用容器の底部に嵌装されて、前記収納物の底部を保護することを第 2 の特徴とする。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0012】

また、本発明の包装用容器は、前記開閉収納体の開く範囲は、該開閉収納体の開角度で

あることを第 3 の特徴とする。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0013】

また、本発明の包装用容器は、前記開閉収納体の開く範囲は、該開閉収納体の回動する量であることを第 4 の特徴とする。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0014

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0014】

また、本発明の包装用容器は、前記開閉収納体の開く範囲は、該開閉収納体の開く位置であることを第 5 の特徴とする。

【手続補正 7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0015

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0015】

また、本発明の包装用容器は、前記開閉収納体の開く範囲は、該開閉収納体の開く距離であることを第 6 の特徴とする。

【手続補正 8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0016

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0016】

また、本発明の包装用容器は、前記開閉収納体が、対向して配置される一対の第 1 及び第 2 の開閉収納体で構成されることを第 7 の特徴とする。

【手続補正 9】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0017

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0017】

また、本発明の包装用容器は、前記開閉収納体の上部に、前記収納物の頂部保護手段を備えていることを第 8 の特徴とする。

【手続補正 10】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0018

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 1 8 】

また、本発明の包装用容器は、前記外部包装用容器は、キャンドルスリーブとして形成されていることを第 9 の特徴とする。

【手続補正 1 1 】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 9

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 1 2 】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 0 2 0

【補正方法】削除

【補正の内容】